

## 平和の扉を開いた使者

### 新渡戸 稲造

新渡戸稲造は、一八六二年、陸奥国岩手郡（現在の岩手県盛岡市）で生まれました。



〔北海道大学附属図書館蔵〕

稲造は幼いころから、祖父や父のように、開拓の仕事をしたと考えていました。

また、英語を学ぶことにより、自分の世界が広がることに魅力を感じ、どの学問よりも熱意をもって取り組みました。

アメリカの大学をモデルとした農学校が札幌に設立されたことを知った稲造は、迷わず札幌農学校（現在の北海道大学）に入学し、農業について学びました。

稲造は、札幌農学校を卒業した後、「太平洋のかけ橋になりたい。」という思いをだいて、アメリカへ留学し、さらに勉学に励みました。

日本に戻ると、札幌農学校の教授として熱心に指導にあたりました。また、昼間に働いている人が夜間に無料で

学ぶことができるよう、札幌に遠友夜学校を創立し、校長となりました。

稲造は、一九二〇年から六年間にわたり、スイスのジュネーブで国際連盟事務次長を務めました。国際連盟は、第一次世界大戦後、世界平和と国際協力を目的につくられた組織です。稲造は、「国際連盟で働く者は、自分の祖国を代表するのではなく、世界の平和のために働くべきである。」と考え、世界のためにつくしました。

一九二一年、ヨーロッパのバルト海にある島々、オーランド諸島をめぐる紛争が発生しました。オーランド諸島はもともとスウェーデン領でしたが、その後ロシア領となり、第一次世界大戦後には、ロシアから独立したフィンランドが領有権を主張しました。そこで、スウェーデン、フィンランド両国が、この諸島の領有権がどちらにあるかという問題を、国際連盟にもち込みました。

国際連盟が最初に処理をゆだねられたこの紛争に対して、稲造は、双方の意見を十分に聞き、また、国際法学者の考えもうかがい、解決の道を探りました。

一九二一年六月、国際連盟理事会にて、「新渡戸裁定」といわれる提案が承認され、この紛争は解決されます。

「新渡戸裁定」

オーランド諸島はフィンランドの領土とするが、住民の使用しているスウェーデン語を公用語とし固有の文化を認める。フィンランド政府は、オーランドに軍事・外交を除く高度の自治権を与えなくてはならない。また、両国の不安とならないよう、非武装の中立地帯とする。



[オーランド諸島の位置 出典：ウィキペディア・コモンズ]

この裁定は、フィンランドとスウェーデンの住民がそれぞれ少しずつゆずれ合い、たがいの主張を認め合うものでした。フィンランド領となることに対して、住民たちもはじめはとまどいましたが、自治権を認められ、非武装の中立地帯となったことから、この「最善の選択」を受け入れました。

オーランド諸島はその後、今日にいたるまで、両国の友好のシンボルになっています。稲造は、住民たちの願いや状況を十分に理解し、「平和の扉を開いた使者」として、高い評価を受けました。

稲造が事務次長を退任する際、当時の国際連盟の事務総長は「西洋社会に寛容な東洋の英知をもたらしてくださった。」と賞しました。日本人として、「太平洋のかけ橋」となった稲造は、世界の平和につくし、「世界のかげ橋」にもなったのです。

一八六二	陸奥国岩手郡（現在の岩手県盛岡市）で生まれる
一八七七	札幌農学校へ進学する（十五歳）
一八八四	アメリカへ留学する（二十二歳）
一八九一	札幌農学校の教授になる（二十九歳）
一八九四	遠友夜学校の校長になる（三十二歳）
一九二〇	国際連盟事務次長に就任する（五十八歳）
一九二一	オーランド諸島の紛争を仲裁する（五十九歳）
一九三三	訪問先のカナダで死去する（七十二歳）

\*領有権・・・自分の国の領土であるとする権利

\*自治権・・・国の一部分が独自に政治を行える権利

\*寛容・・・心が広く、よく人の言動を受け入れること